



越後百景十選

10 views of Echigo

目次

越後百景十選 一番「ニッポニアニッポン・トキ」
越後百景十選 二番「雪・北越雪譜」
越後百景十選 三番「春の太田川」
越後百景十選 四番「桜・悠久山」
越後百景十選 五番「佐渡島」
越後百景十選 六番「醤油桶」
越後百景十選 七番「長岡花火」
越後百景十選 八番「機那サフラン酒製造本舗土蔵」
越後百景十選 九番「山古志の棚田」
越後百景十選 十番「秋山孝ポスター美術館長岡」

[Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)

[Technique] ----- Offset printing

[Date] ----- 2012

[Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡

[Category] ----- Culture

秋山孝 Takashi AKIYAMA

多摩美術大学教授、秋山孝ポスター美術館長岡・館長

●1952年新潟県長岡市生まれ。多摩美術大学卒業。東京芸術大学大学院修了。2009年7月11日「秋山孝ポスター美術館長岡」が開館。

●受賞=1984年アフリカ自然保護ポスターデザインコンテスト・チュニジア大使館賞、1986年自然保護ポスター「WILD LIFE - HELP」でワルシャワ国際ポスタービエンナーレ・金賞(ポーランド)、1986年自然保護ポスター「WILD LIFE - HELP」でブルーノ国際グラフィックデザインビエンナーレ・アルティア賞(チェコスロバキア)、1992年湾岸戦争反対ポスター「Peace」でメキシコ国際ポスタービエンナーレ・栄誉賞(メキシコ)、1993年エイズキャンペーン3点シリーズ「Man」「Lady」「Venus」でN.Y.ADC国際展・銅賞(アメリカ)、1995年地震をテーマとした「Tokyo Image Panic 1995 Earthquake」でN.Y.フェスティバル・銀賞、1995年写実生誕200周年記念ポスターで銅賞(アメリカ)、1997年環境保護をテーマとしたポスターでヘルシンキ国際ポスタービエンナーレ'97・栄誉賞(フィンランド)、1997年自然保護ポスター「WILD LIFE - HELP」でイタリア・コニー国際自然映画祭ポスター指名コンペ1席(イタリア)、1999年インド核実験反対のポスターでN.Y.フェスティバル・国連賞(アメリカ)、2007・08・09・10・11・12 Graphis Poster Annual(アメリカ)で14個の金賞を受賞、他多数

●国際審査員=1995年ヘルシンキ国際ポスタービエンナーレ(フィンランド)、1998年メキシコ国際ポスタービエンナーレ(メキシコ)、1999年コニー国際映画祭ポスターデザインコンペティション(イタリア)、2003年4th Block・国際エコロジーポスタートリエンナーレ(ウクライナ)、2010年シカゴ国際ポスタービエンナーレ(アメリカ)、2011年上海グラフィックデザインビエンナーレ(中国)、2012年ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ(ポーランド)

●著書=『キャラクター・コミュニケーション入門』(角川書店)、『秋山孝ポスター作品集』(上海人民美術出版社)、『中国ポスター』(朝日新聞出版)、『イラストレーション・スクール』(デザインハウス・韓国)、他多数。

<http://www.tamabi.ac.jp/gurafu/akiyama/>



"越後百景十番"

発行日 :2012年4月21日

発行者 :秋山孝

発行所 :秋山孝ポスター美術館長岡

〒940-1106 新潟県長岡市宮内 2-10-8

Tel,Fax : 0258-39-1233

E-mail : info@apm-nagaoka.com

URL : <http://apm-nagaoka.com>

デザイン:秋山孝事務所・秋山孝・高橋庸平

印刷所 :大日本印刷株式会社

※無断で複写、複製および使用を禁ず。

"10 views of Echigo"

Date of issue : 2012.04.21

Publisher : Takashi Akiyama Poster Museum Nagaoka

2-10-8 Miyauchi Nagaoka-city Niigata 940-1106 Japan

Tel,Fax : 0258-39-1233

E-mail : info@apm-nagaoka.com

URL : <http://apm-nagaoka.com>

Design : Takashi Akiyama Studio : Takashi Akiyama, Yohei Takahashi

Printed in Dai Nippon Printing Co., Ltd.

© 2012 Takashi Akiyama, Published in Japan by Takashi Akiyama Poster Museum Nagaoka.

All right reserved. No part of this brochure may be reproduced in any form or by any means, electronic or mechanical, including photocopying or recording, or by any information storage and system, without permission in writing from the publisher.

・中綴じ製本/A4(天地297×左右210mm)

・表紙・本文:OKプラスター7C菊Y93.5

越後百景十選について

秋山 孝

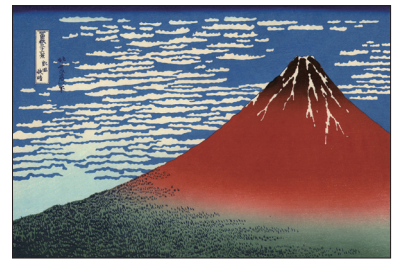
江戸時代後期の浮世絵師・葛飾北斎は、代表作に名所絵『富嶽三十六景』がある。北斎は富士山を画面いっぱいに描いた「凱風快晴」や富士山を遠景に配した「神奈川沖浪裏」は特に知られている。歌川広重は『東海道五十三次』『近江八景』などで知られている。それらは名所を板目木版で刷られた。ヨーロッパでは、19世紀後半、新たな絵画を模索するゴッホやモネなどは上記の浮世絵などをコレクションし模写をしたり、自分の作品に反映させた。

これら江戸時代の庶民が愛した一枚の浮世絵プリントがヨーロッパでは19世紀後半の印象派やアール・ヌーヴォーの芸術家に色濃く影響を与えた。確かに西洋絵画には、浮世絵にある鮮やかな色彩や大胆な構図それに洗練された発想と省略は、全くなかった。それは、大きく当時の西洋絵画表現に変革をもたらす新鮮さがありジャポニスムと呼ばれ流行した。しかし、日本では正反対に西洋画を日本に取り入れ油絵が全盛期をむかえ、浮世絵の美は消えさるという逆転現象が現れた。

ところが、杉浦非水、橋口五葉を始めとする図案家と呼ばれたデザイナーたちは、いち早く日本で再評価しその表現のエッセンスをものにした。ポスターを代表とするプリント表現のなかに江戸浮世絵の美は受け継がれていったのである。あいかかわらず日本の油絵は、西洋では鼻にもかけられないが、それに引き換え日本のポスターは、西洋の絵画表現の行き詰まりを打開した浮世絵の延長線上にあり、日本の美の独自性があるため高い評価を得ている。

前置きが長くなってしまったが、この「越後百景十選」を語るためには押さえておかないと説明できないので許してほしい。ぼくは、以前からぜひ江戸時代隆盛を誇った「名所絵」をものにしたかった。しかも、小さな版木に彫られた浮世絵ではなく、現代の浮世絵のメディアであるポスターで制作したいと目論んでいた。やっとチャンスが訪れた。それが、(株)ホクギン経済研究副所長の河田博さんから「ホクギン・マンスリー」の表紙デザインの依頼だった。

兼ねてからぼくは、故郷の越後をテーマとした「越後百景」をポスターで制作したかった。たまたま1月号から10回連載する表紙のため、ぼくの意図とうまく当てはまるので「越後百景十選」を表紙に持ち込んだ。デザインは季節感を大切にぼくの育った長岡を中心に越後の情緒を探した。しかし、これは、ほんの序の口でやっと越後百景の十選ができたところだ。越後はまだまだ計り知れない魅力とその美しさが満ちあふれた地形や人が育んできた文化がある。その奥深い歴史と人間性のある生活から出てくる言葉にはできないものを北斎や広重のように現代ポスター表現で越後の美を発見したいと思っている。これから、可能な限り越後を歩いて見たこともない感動、あるいは、すでに周知しているが忘れ去った心を見つけ出したいと願っている。



葛飾北斎「富嶽三十六景 凱風快晴」(1831-1835年頃)



葛飾北斎「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」(1831-1835年頃)



歌川広重「東海道五十三次 日本橋」(1833年)



歌川広重「近江八景 唐崎夜雨」(1834年頃)



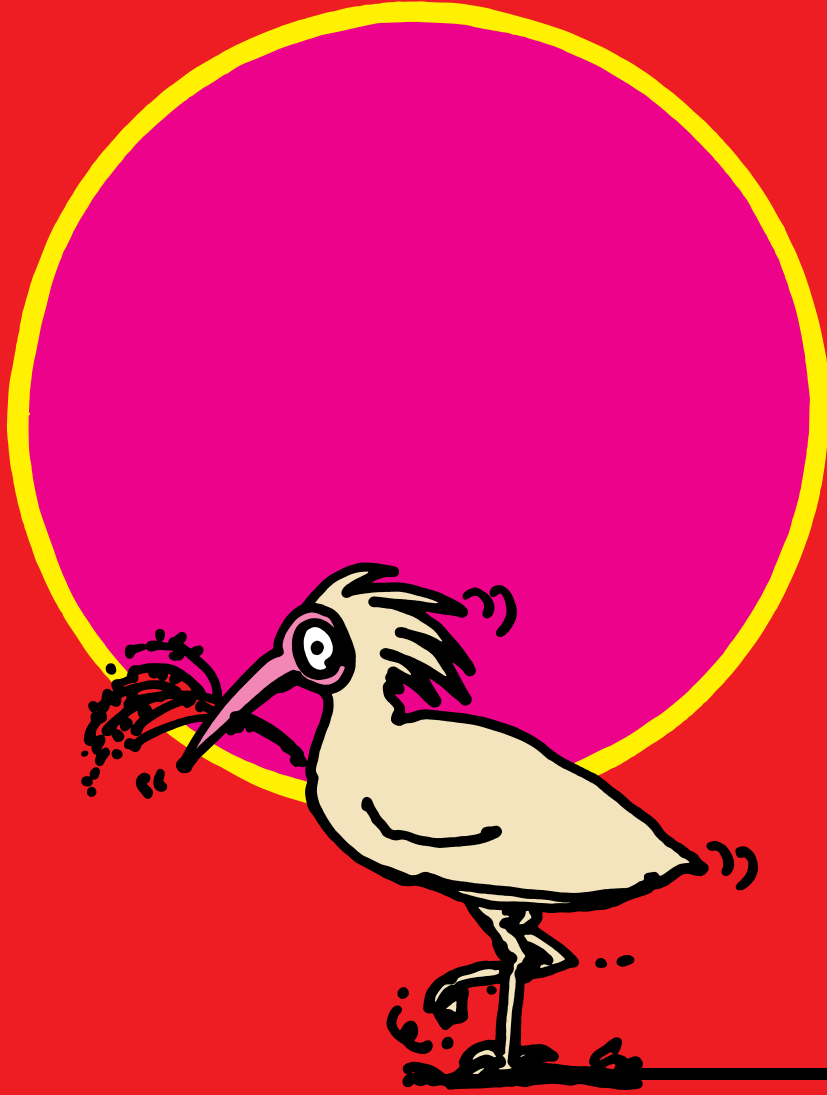
ホクギン・マンスリー(2011年)

越後百景十選 一番
ニッポニアニッポン・トキ



越後百景十選」の第1弾は、新潟を象徴するトキを描いた。そして、くちばしに神に捧げる稲穂を持たせた。1971年、ぼくは進学のために新幹線のない時代の上越線特急「とき」で上京した。その後、1981年東京芸術大学大学院修了制作において、作品集「TOKI」(処女作)を出版した。2008年9月25日に佐渡市にて、トキの野生復帰にむけた試験放鳥が行われ、復活したトキの空を羽ばたく姿には優雅な美しさを感じた。そのためのポスター作品「Toki 2008 Nipponia Nippon / Save The Earth-Wild Life」を制作した。美しい日本の伝統色「鶺鴒(とき)色」を持つトキの学名は、ニッポニアニッポンだ。さらに古代エジプトでは、トキはトト神と呼ばれ学問の神である。

越後の美 発見シリーズ 2012 越後百景十選 一番 ニッポニアニッポン - トキ
10 views of Echigo - 1 Nipponia nippon - Toki

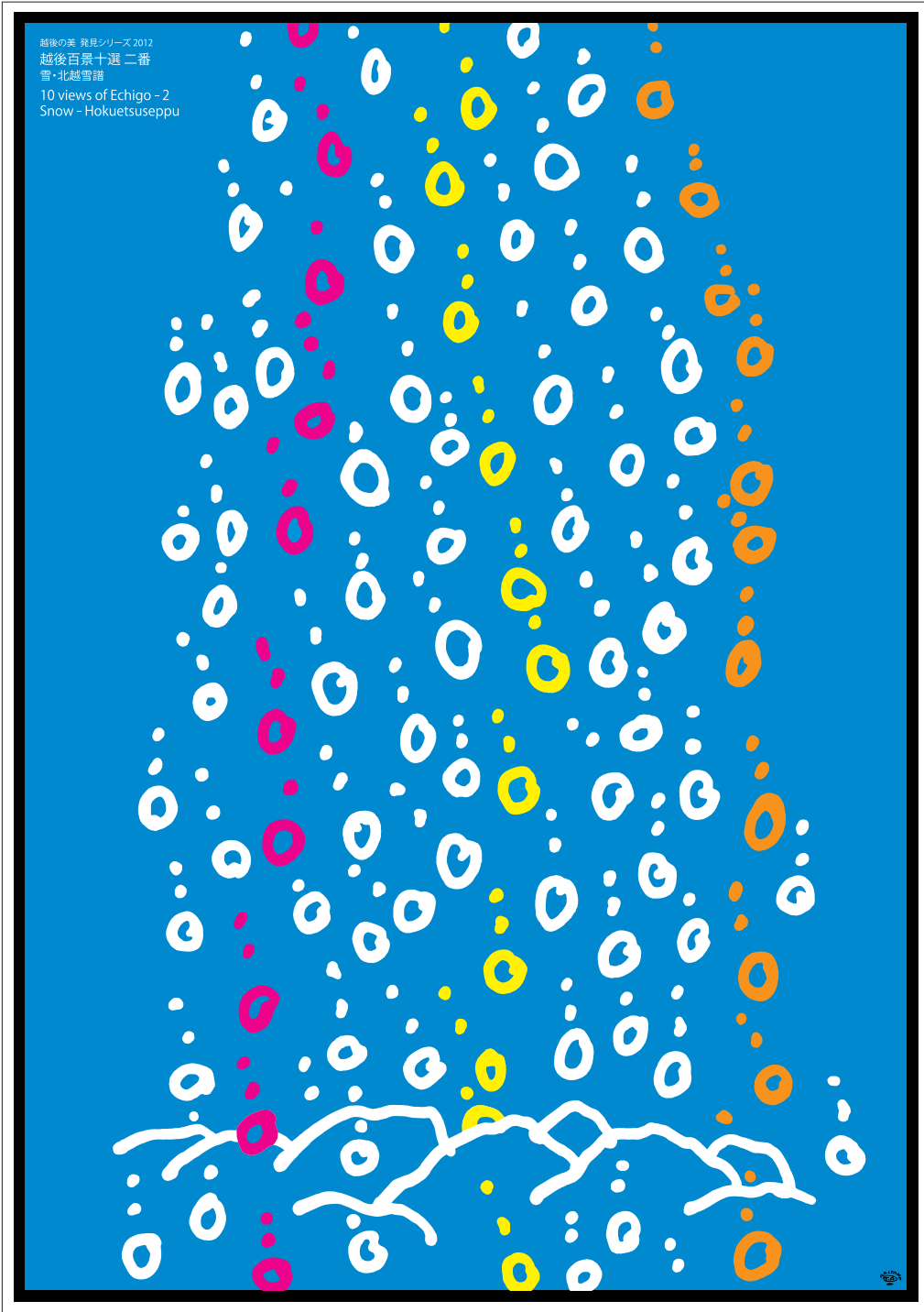


越後百景十選 二番
雪・北越雪譜



「北越雪譜」は江戸後期に魚沼郡塩沢で縮仲買商・質屋を営んだ鈴木牧之が越後魚沼の雪国の生活を著した。雪の結晶のスケッチから雪国の風俗・暮らし・方言・産業・奇譚まで雪国の諸相を豊富な挿絵も交え詳細に記した。牧之の鋭い観察眼に雪に対する愛情と美を見ることができる。ぼくは、さらにそのエレメントを抽出し象徴的に表現した。それは雪一つ一つの連続するつながりだ。まさに自然と人間の一体化した関係だ。そこには絶対的なつながりがある。

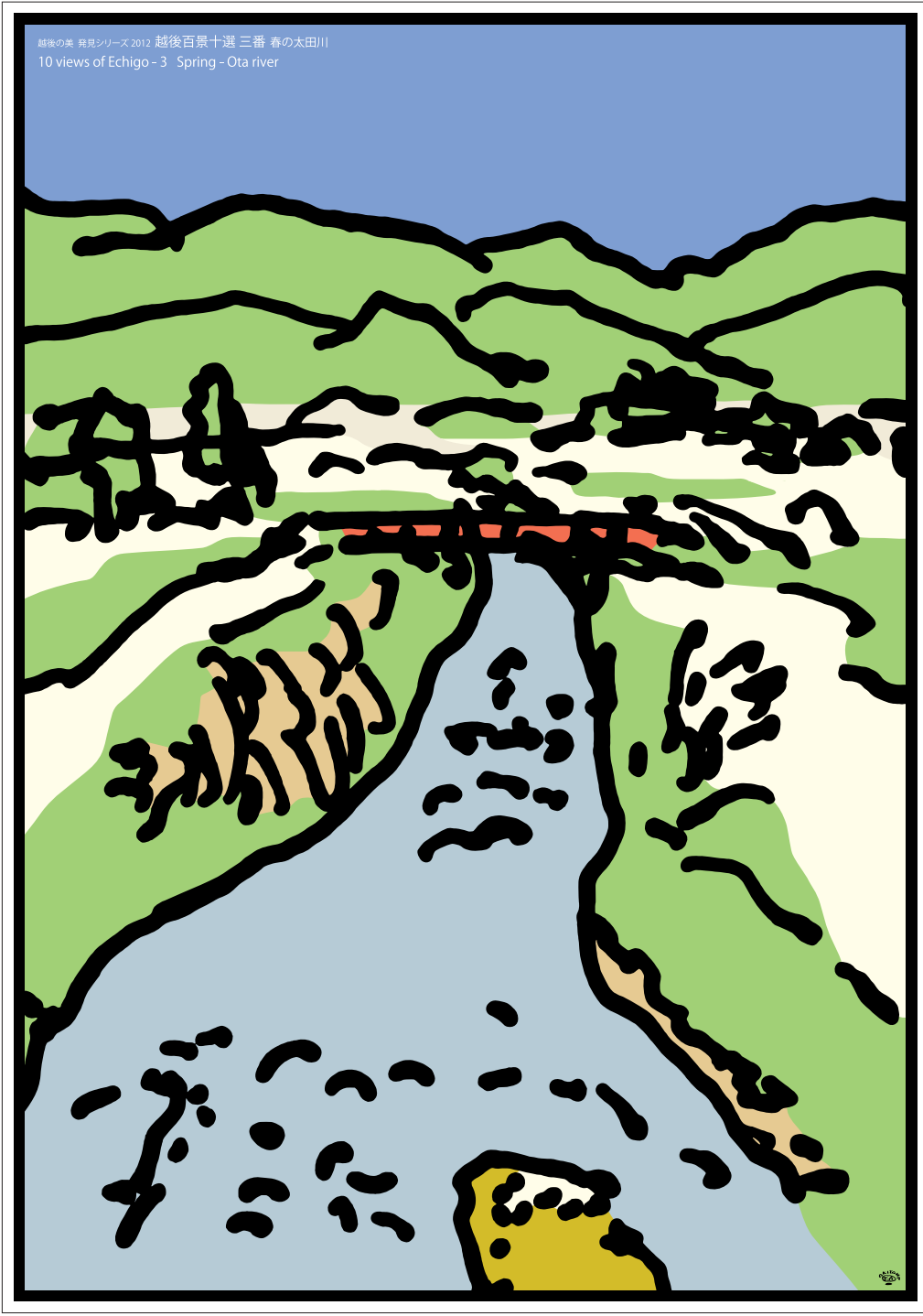
越後の美 発見シリーズ2012
越後百景十選 二番
雪・北越雪譜
10 views of Echigo - 2
Snow - Hokuetsuseppu



越後百景十選 三番 春の太田川



越後の冬は長く、生活する人々は豪雪に耐える。やっとならずかに感じる雪解けは、春を待ちわびた喜びだ。そして、緊張が解けるかのように山々の雪は解け、静かに流れだす。大地に滲み込み湧水となり、小川に注ぎ川となる。ぼくの生まれた育った宮内(室町時代、都野神社の境内/宮内に由来)・撰田屋(都野神社の門前町/撰対屋に由来)は古く1548年からの醸造の町だ。そこの流れる信濃川支流、太田川は上流山古志村に通じる。その恵みが静けさを生み、心豊かな生活を造る。子供のころから太田川のせせらぎの音を聞き、四季折々の風景を見ながら山あいの蓬平(よもぎひら)を訪れた。

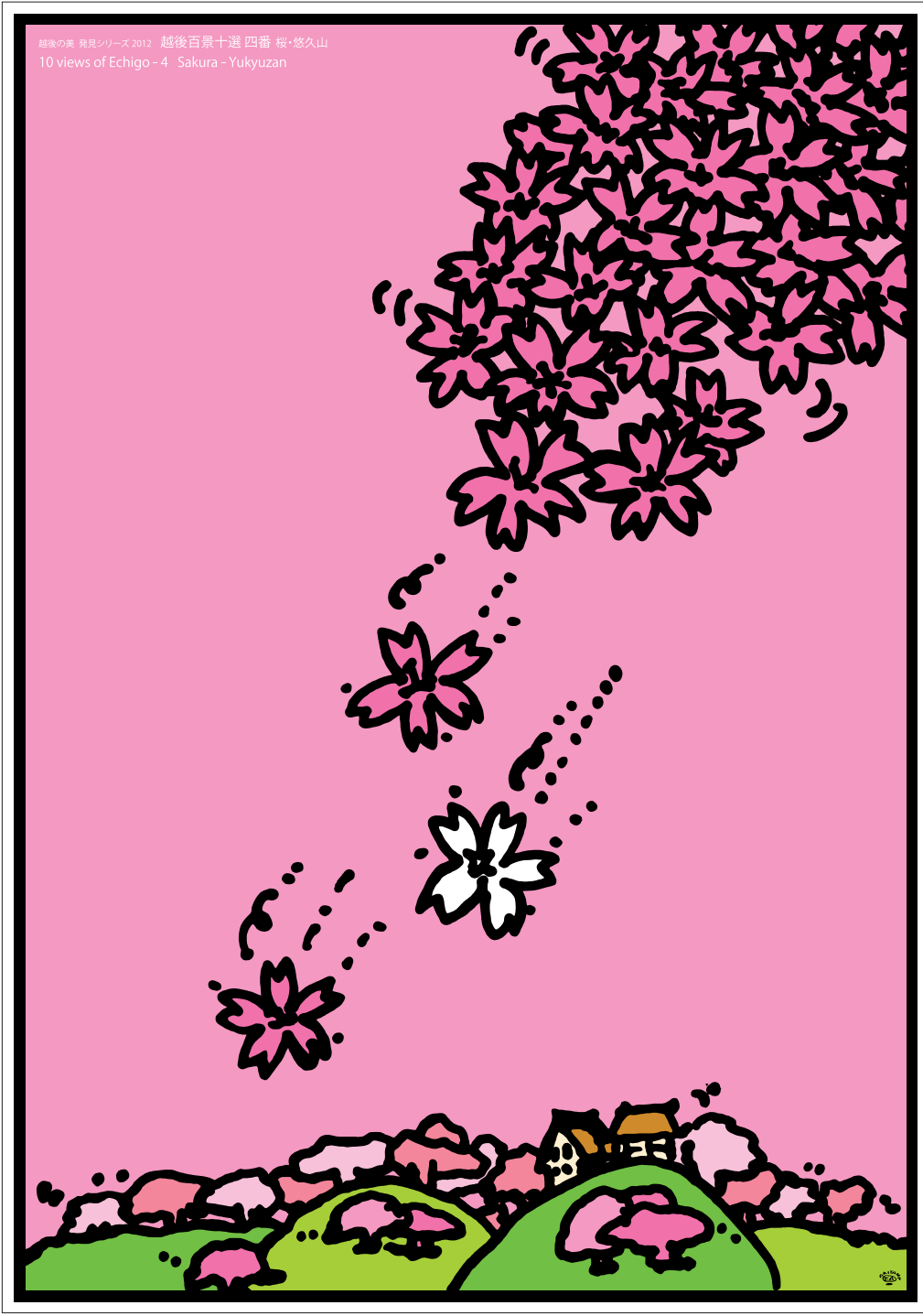


越後百景十選 四番
桜・悠久山



京都大学名誉教授・黒岩澄雄先生に奈良にある関西文化芸術学院でお会いしたのが春だった。その日はとくに清々しく爽やかな日だったので桜前線が話題になった。すると先生が「桜前線」の名付け親は私です。目の当たりにして嬉しくなった。本物に出会った喜びだった。ソメイヨシノの開花前線のことを意味するということだ。ぼくの桜といえば長岡の悠久山だ。やや遅い桜前線だが越後に春がやってくる喜びだ。桜は、咲いて一瞬のうち散るはかなさが美しいと思っている。高田公園、村松公園、大河津分水桜並木もみごとだ。

越後の美 発見シリーズ2012 越後百景十選 四番 桜・悠久山
10 views of Echigo - 4 Sakura - Yukuizan

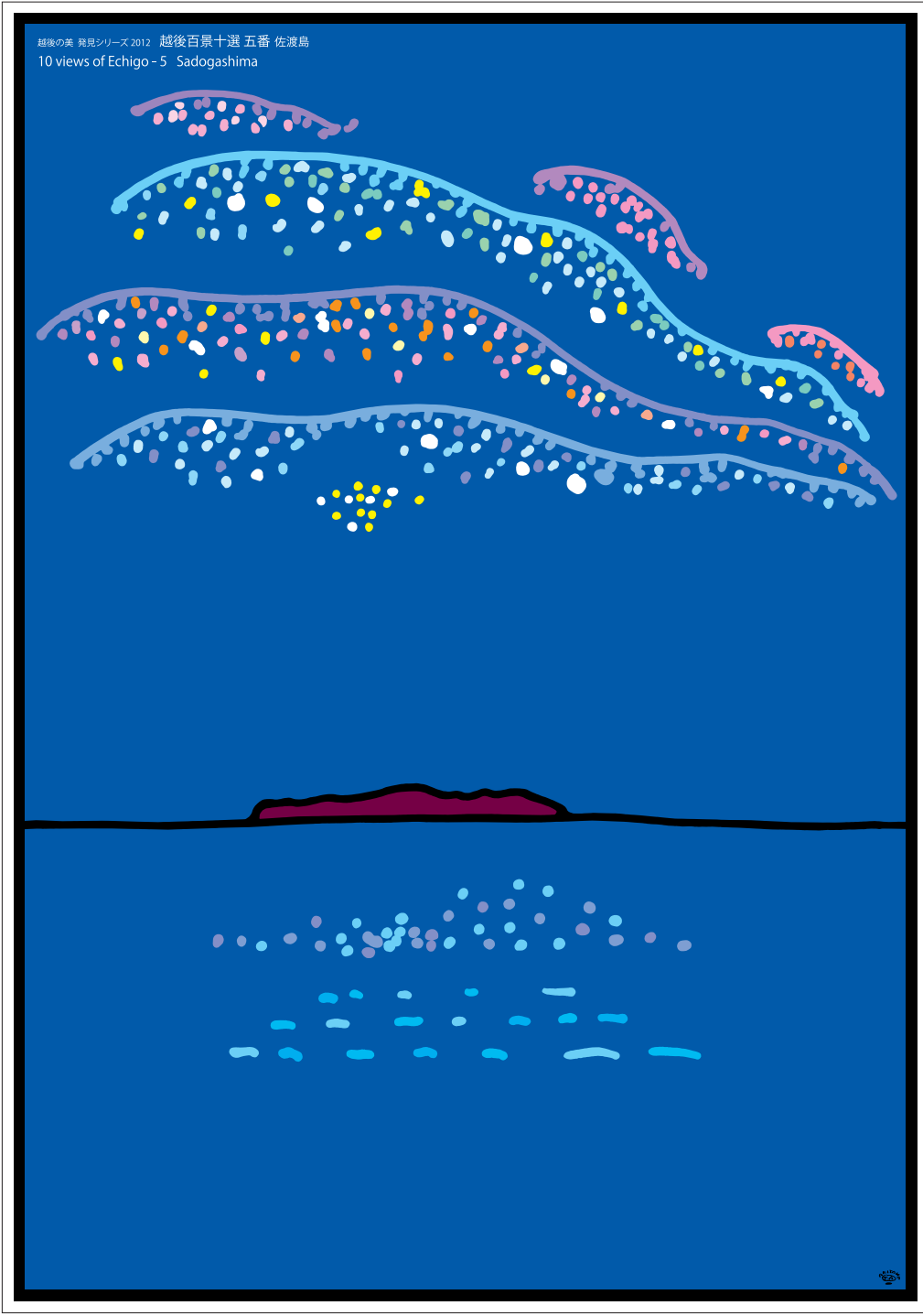


越後百景十選 五番 佐渡島



佐渡は、歴史があつて魅力的な島だ。順徳天皇、日蓮、世阿弥が配流された地でもある。ぼくにとっては、子供のころ読んだ「あんじゅ恋しやホーラホイ ずし
おう恋しやホーラホイ」「安寿と厨子王丸」が鮮烈な記憶として心に刻まれている。厨子王は、この歌を聞いてこれぞ母と知り、駆け寄りすがりついた。切なさ
と愛情をぼくは知った。また、1689年松尾芭蕉が出雲崎で詠んだ「荒海や佐
渡に横たふ天河」あまりにも有名な句は、佐渡のイメージと文学的な感性を決
定づけた。さらに、「佐渡おけさ」は、母の思い出であり、底辺に流れるぼくの音
楽だ。

越後の美 発見シリーズ2012 越後百景十選 五番 佐渡島
10 views of Echigo - 5 Sadogashima



越後百景十選 六番 醤油桶



人間にとって古い醸造業は、「越後の美」の一つにあげられる。ぼくの町の撰田屋にはみごとな醤油桶ある。ここに描いた「越のむらさき」の桶は1928年(昭和3)に製造され、材質は杉材で重さ1トン、9,000リットルの生揚げが入る。工場で熟成したもろ味を搾った生揚げを入れたものだ。1,8リットル瓶で約5,000本の醤油になる。旧三国街道沿いにあった上組小学校を登下校するときに醤油の香りと酒蔵を歩くのが日常だった。東山と田んぼそれに雪、それぞれが与えてくれる自然の恵みが、ぼくに美しさの源を作ってくれたと思う。

越後の美 発見シリーズ2012 越後百景十選 六番 醤油桶
10 views of Echigo - 6 Shoyu-oke



越後百景十選 七番 長岡花火



少年時代、長岡の夏祭りがやってくるとワクワクする気持ちになった。我が家に親戚のいとこ達が集まって来て屋根の上って花火を観る。ゴザを敷いてスイカやトモロコシを頬張りながら夜空に咲く花火を観賞する。思い思いに綺麗さの分析やうんちくを語り楽しむのだ。少年は、そのうちに睡魔に襲われメインイベントの三尺玉を見逃してしまうのだ。もともと長岡の花火は第二次大戦からの戦災復興のシンボルだ。70万人から80万人の人が訪れるが、イントロには必ず亡くなった人などへの弔いの花火が上げられる。新潟県の三大花火といえば長岡花火、柏崎花火、片貝花火だ。



越後百景十選 八番
機那サフラン酒製造本舗土蔵



日本で最も美しい蔵と呼ばれている大正末期に造られた「機那サフラン酒製造本舗土蔵」は、長岡市撰田屋にある。子供の時から当たり前の風景であったが美しさだけは気がついてきた。小江戸と呼ばれる川越を代表し関東一円の蔵造りと比較すると、なんとも軽快感のある美しい形だ。どこに違いがあるかと言うと、川越で見られる蔵は屋根が重々しく見栄を張ったようなデザインとなっているが、サフラン酒蔵は屋根が軽く河上伊吉の鍔絵が施されている。日本の中でここまで美しい鍔絵は見たことがない。創業者吉澤仁太郎のアートのセンスは計り知れない美意識を感じる。

越後の美 発見シリーズ2012 越後百景十選 八番 機那サフラン酒製造本舗土蔵
10 views of Echigo - 8 Kura - Kina Safuran-shu



越後百景十選 九番 山古志の棚田



山古志は、重要無形文化財に指定されている「牛の角突き」で知られている。体重1トンもする牛の巨体の激突は、圧巻で500年の伝統を受け継ぐ神聖な行事だ。みごとな肉体美とたくましい姿の牛は、家族の一員で愛されている。だからこそ長年続けられる要因だ。2004年の中越地震の自然災害を乗り越え復興する姿を見ることができる。山深い山古志の棚田は、越後の大切な美の風景だ。春夏秋冬のそれぞれの季節の変化から受ける自然の美とそこに暮らす人々の関係がある。その美しさの造形は、山間にある手の込んだ棚田の自然を感じさせる連続性のある水平感だ。四季の光輝く歌声が聞こえてくる。

越後の美 発見シリーズ2012 越後百景十選 九番 山古志の棚田
10 views of Echigo - 9 Tanada - Yamakoshi

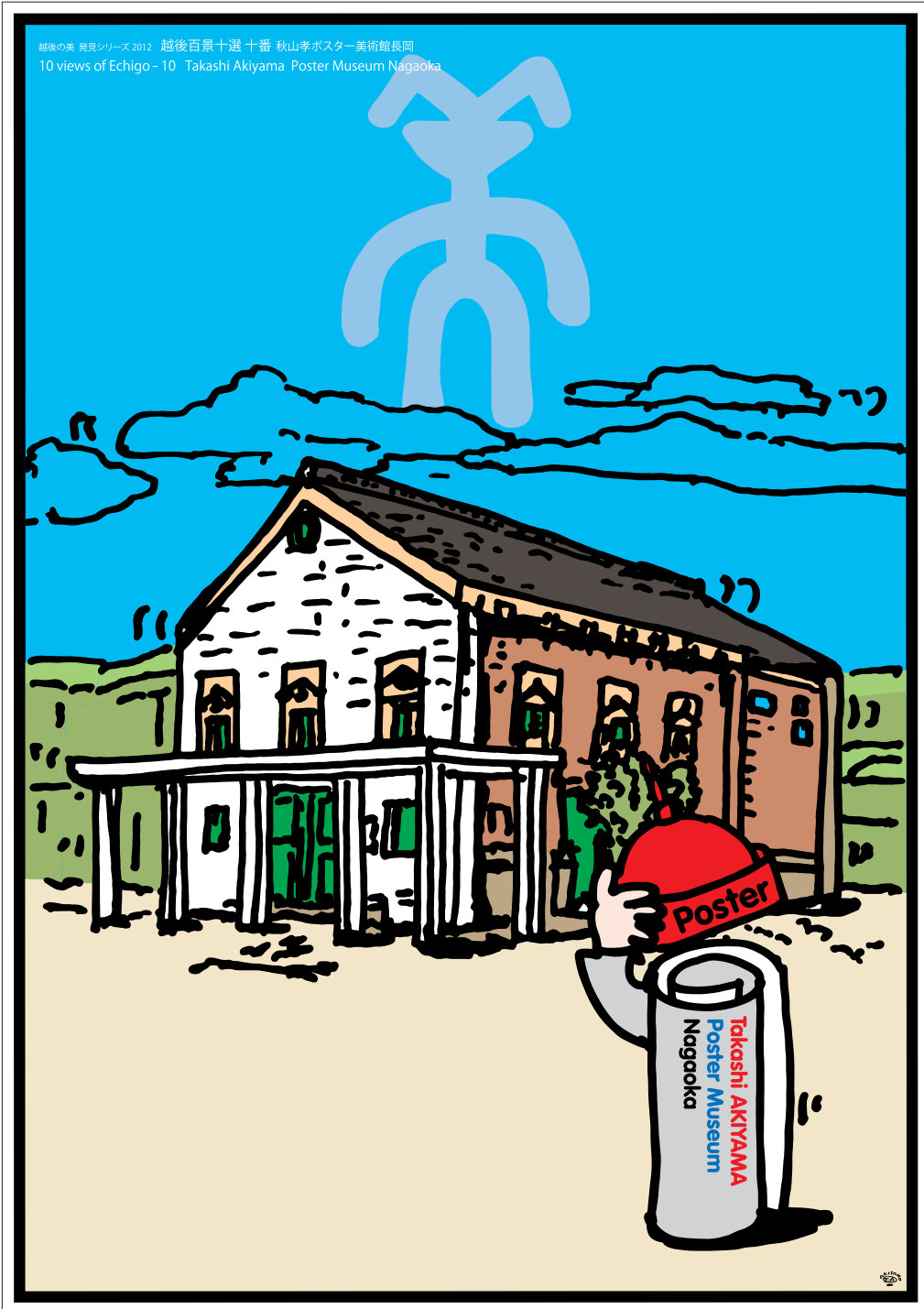


越後百景十選 十番
秋山孝ポスター美術館長岡



「越後の美」発見シリーズの最終回は、「秋山孝ポスター美術館長岡」を選んだ。2009年7月11日に開館し日本で唯一のポスター美術館で都市景観賞を受賞している。この歴史的建造物は1925年(大正14)に建設され、北越銀行宮内支店として宮内・摂田屋地区の人々と共に歩んできた。しかし、戦災や度重なる地震などによって老朽化したため修復保存し、地元の人々の協力を得てここに簡素でモダンな美術館が誕生した。歴史ある醸造の街旧三国街道の宮内・摂田屋地域の魅力を再発見し新たな街づくりとして「文化と自然」「美と教育」の実現に貢献したいと願っている。

越後の英 発見シリーズ2012 越後百景十選 十番 秋山孝ポスター美術館長岡
10 views of Echigo - 10 Takashi Akiyama Poster Museum Nagaoka




Takashi AKIYAMA
Poster Museum
Nagaoka